

輪

～人とダムと自然を繋ぐ～



ダム正面立面図 1/100

<Concept>

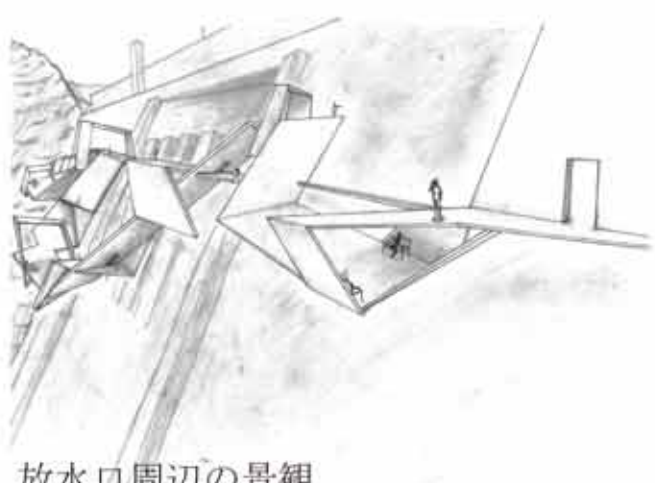
土木建造物におけるダイナミックであり、人々の生活環境に大きく影響しているものはダムであろう。しかし、建造物における機能をあまりに露出しすぎたため、ダム本来の価値観が失われ人々の認識や距離感は開き、本当のダムの魅力が失われつつある。

そこで、ダム本来の価値観・そして自然を人工的な構造物で扱うことの真価を問うことがこれからの新時代のダムにふさわしいと考え、既存のダムに新たな機能を付け加えることで「新時代のダム」を提案する。

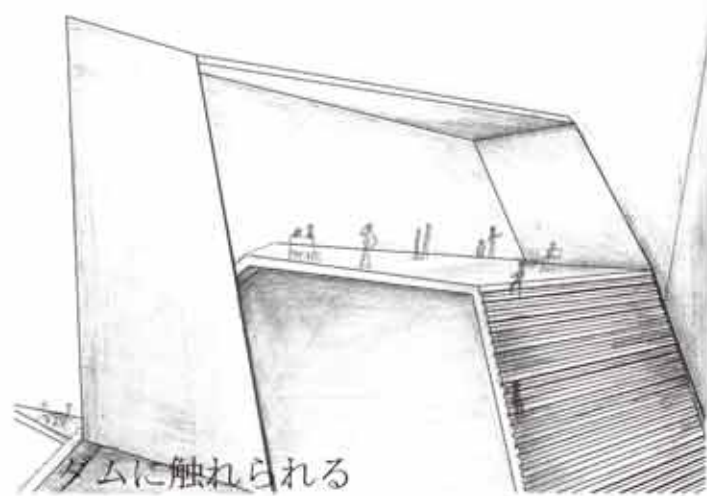
<Target Arer 早明浦ダム>

高知県長岡郡本山町と土佐郡土佐町にまたがる吉野川本流上流部に建設されたダムである。型式は重力式コンクリートダム、高さは106.0メートルで有効貯水容量は2億8,900万立方メートル、利水容量は1億7300万立方メートルで、これは香川県内の全ため池（15,000ヶ所）の総容量に相当し、吉野川水系における水資源施設の中核をなす四国地方最大のダムである。そのため「四国のいのち」とも呼ばれている。

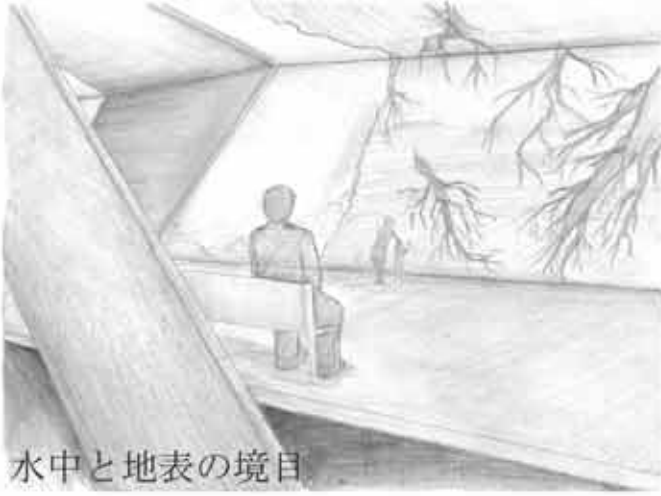
ダムの中でも大規模のものであり、建造物としての魅力、水位の変化や自然の情景の変化、渇水時に顔を見せる旧大川村役場があるなど様々な面をもっている非常にポテンシャルを含んでいるダムである。



放水口周辺の景観



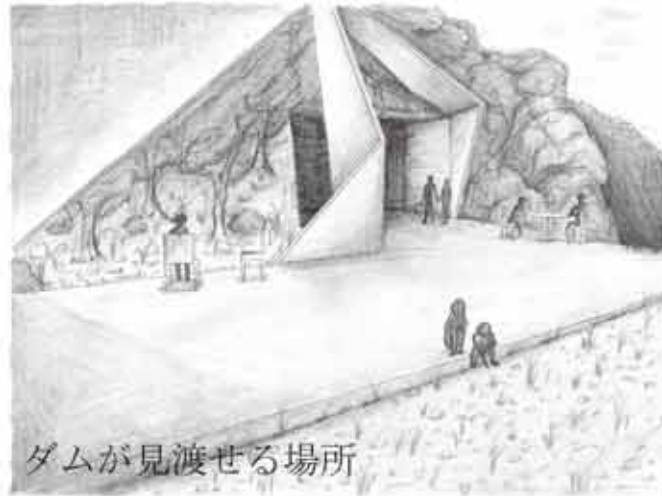
ダムに触れられる



水中と地表の境目



旧大川役場が見える通路



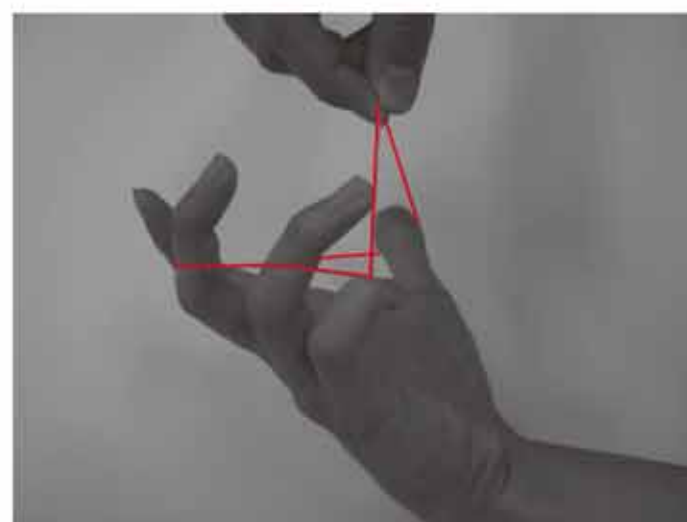
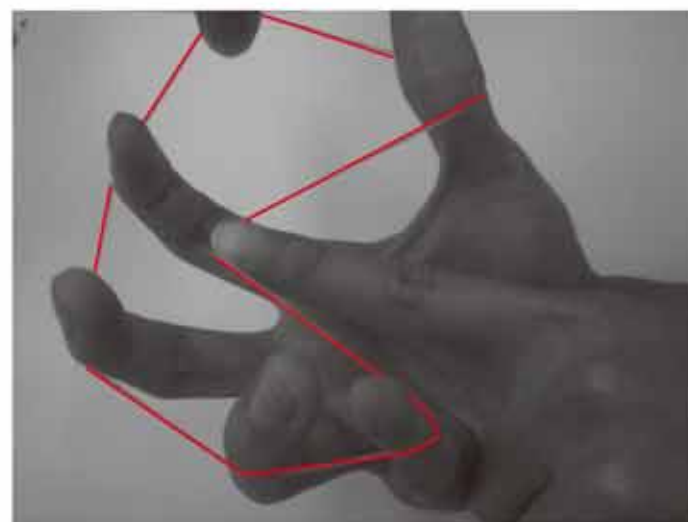
ダムが見渡せる場所

<Design>

コンセプトにおいてはダムはコンクリートの部分だけでなく、周囲の自然、湖畔を作りだしている部分を含めてダムであるという考えから、ダムを形成しているものを輪で囲み、周囲すべてのもので全体でダムであることを表した。しかし、単純に囲むだけではダムの持つ様々な表情を見せることはできない。そこでダムを囲む輪をゴムに見立てその可能性に着目した。ゴムは自由に変形できる。ダムの見せるべき部分へ寄せたり、魅力的な部分へレベルを下げたりすることで動線を引き込むことが可能となり、この性質をデザインへ反映させた。

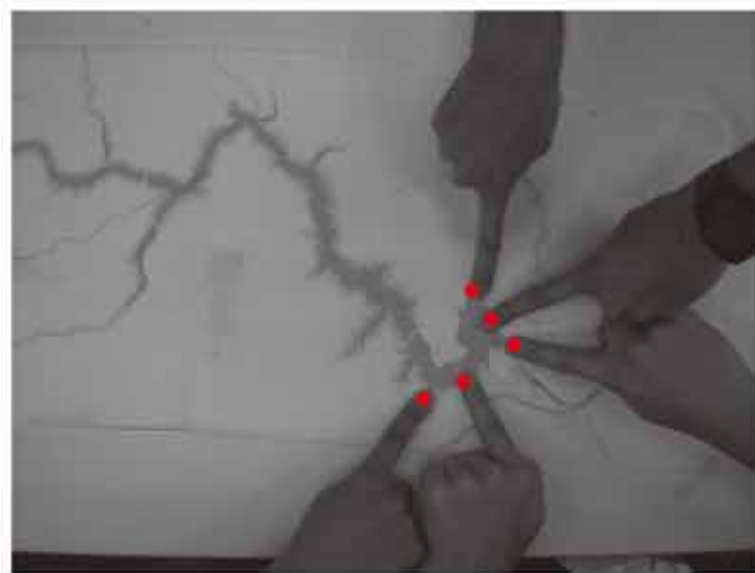


輪をゴムで
デザインする

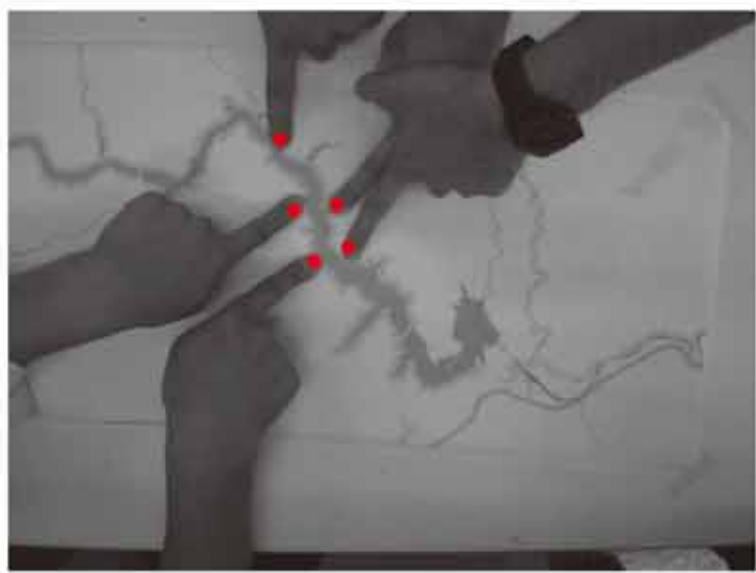


輪ゴムの持つ柔軟性に着目

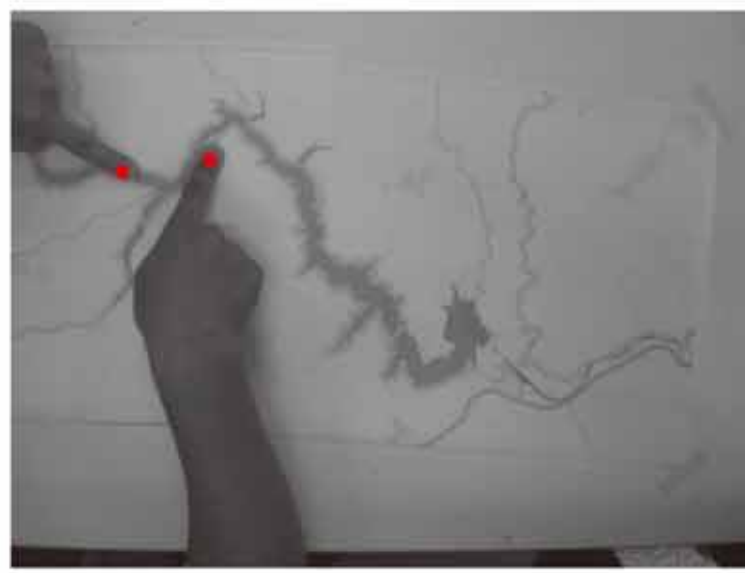
ゴムの動線が通る道はダムの持つポテンシャルの高い部分をポイントとして選び、そのポイントへゴムを伸ばすようにして道をつくる。



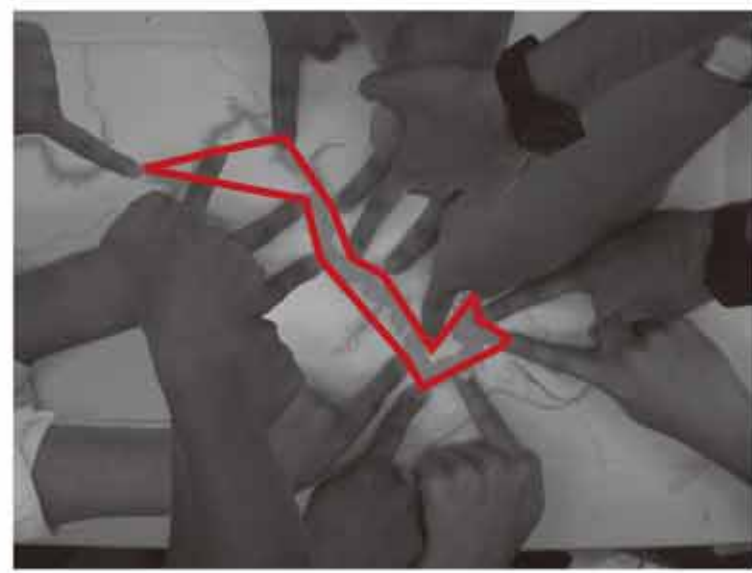
放水口周辺の景観を見渡せるポイント



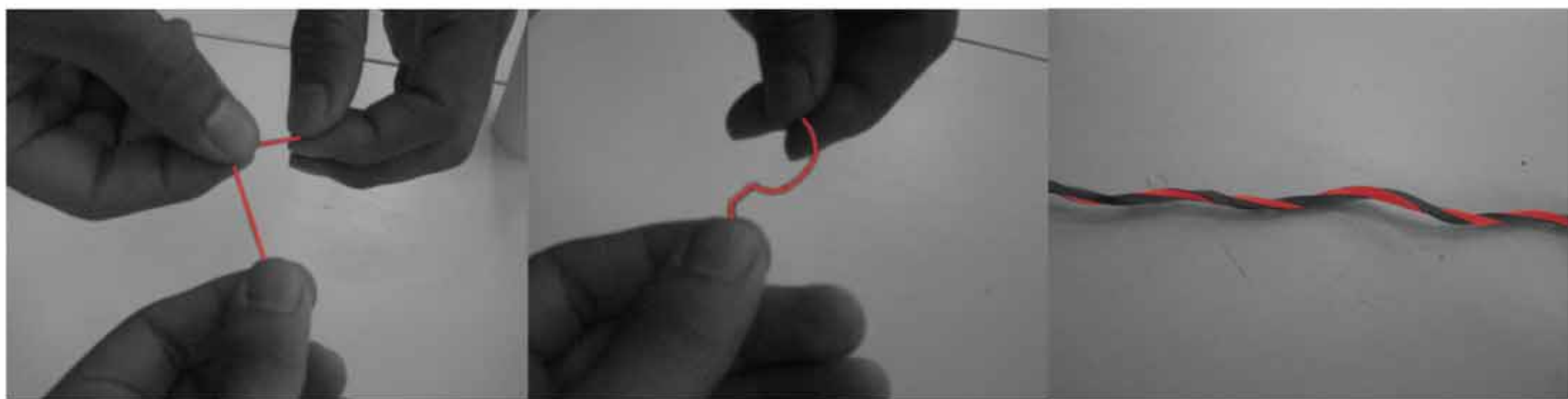
水中と地表の景観の変化が大きいポイント



旧大川役場とダム全体が見渡せるポイント



ポイントに引っ張られるように道を作る



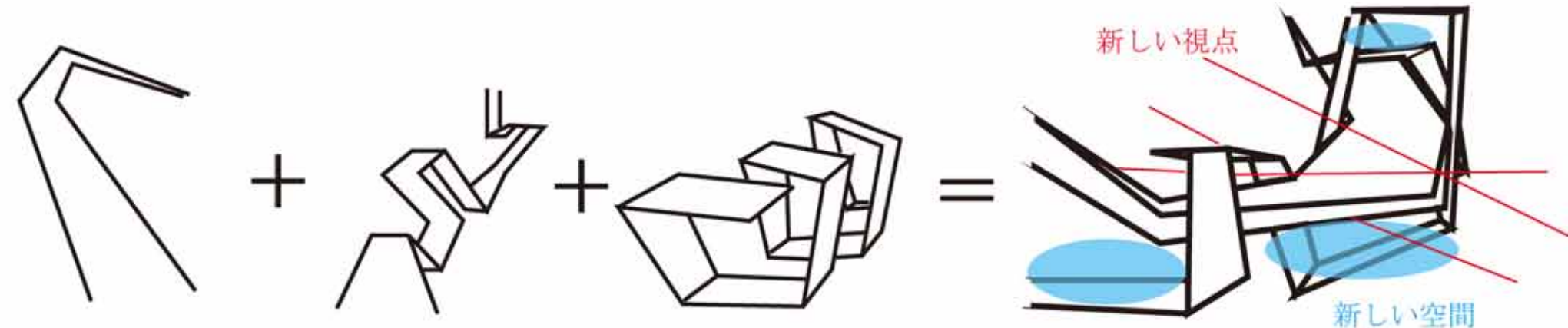
<のばす>

<ちぢめる>

<ねじる>

<ゴムから生まれる空間のねじれ>

ゴムは伸びたり縮んだりする。またゴムはそのような動作をしている時、断面にねじれが生じる。そこでねじれを結合し、道のデザインとすることで新しい視点、空間を生み出すことができ、ダムの魅力を引き出す。



新しい視点

新しい空間